



進路だより

第 2 号

県高 P 連進路対策委員会発行 宮城県仙台三桜高等学校 PTA 編

発行日 令和 6 年 12 月 13 日

令和 6 年度、県高 P 連進路対策委員会では、年 5 回リーフレット(進路だより)を発行する予定です。委員校における進路対策関連の主な取り組みを紹介します。第 2 号は、宮城県仙台三桜高等学校が担当します。

小学校・中学校・高等学校など学校で働く教員の処遇や職場環境について、社会的な関心も高まっています。そこで、第 2 号では、過去のリーフレットの前例から趣向を変えて、「**学校の先生として働きたい!**」と考え始めている(かもしれない)高校生の皆さんに向けて、東北地方において唯一、教員養成を目的とした国立の単科大学である宮城教育大学の学生の「生の声」を届けるリーフレット(進路だより)を作成しました。三桜高校 PTA 会長のおススメとして、『理科』に特化した学生からの声をお届けします。「**何がきっかけで先生になろうと思ったの?**」や「**受験対策って、どんなことをしたの?**」など、興味のある方々にこれらの情報が参考になると幸いです。

このリーフレットを作成するにあたり、宮教大の学部 4 年や教職大学院 1 年の学生、そして実際に学校で働き始めて 1 年目の現職教員の皆さんから、受験生だった当時のことや大学生時代の今のこと、就職 1 年目の今の思いなどを寄稿してもらいました。「進路だよりに、このような趣旨で載せたくて」と皆さんに依頼したところ、「ぜひ私の声を届けて!」と全員が快諾してくれました。できるだけ多くの「生の声」を届けたいので、いつもの『進路だより』のページ数を大幅に越えた PDF となっています。文字ポイントを小さめにしているため、PC やタブレットで拡大してご確認ください。

高校生向けのリーフレットですが、日々の学校生活でお世話になっている高校の教職員の方々も、教員をめざして頑張っている宮教大の学生たちの想いをご一読いただき、今後とも後進の育成に、ぜひお力添えをお願いします。

～ 宮城教育大学附属小学校および中学校での大学 3 年次教育実習の様子 ～



宮教大附属小での 3 年次教育実習『理科』 左から小 4「動物のからだ」、小 5「台風と天気」、小 6「植物のからだ」



宮教大附属中での 3 年次教育実習『理科』 中2「植物のからだのつくりとはたらき」 ※一人一台端末の活用

【参考】 学生の声の中で出てくる「学習指導案(指導案)」とは、授業の設計図のようなものです。ドラマや舞台の「台本」のような物と考えてください。この学習指導案には、1 時間(45 分や 50 分)の授業で学習する内容の目標と評価、それらに応じた取組み内容などが記載されます。中等教育専攻は、中学校や高校の教員をめざす学生が所属します。初等教育専攻は、小学校の教員をめざす学生が所属します。両専攻で、特別支援に関する教員免許状の取得も可能です。詳細は、大学が公式に公開している情報を必ず参考にしてください!

仙台三桜高校を卒業した学生より

Sさん(仙台三桜 OG, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が理科の教員を目指したきっかけは、自分が好きな理科という教科の魅力を子どもたちに伝えたいと思ったからです。理科で学ぶ内容は身のまわりのことやものに関わる内容がほとんどなので、日々の生活と関連し、生活に役立つ内容を教えるということは理科を教えるやりがいにもつながっていると感じます。関心があったのは理科という教科だったので、初等ではなく中等の教育課程を選びました。

理科の実験では、危険なことや注意点について経験しながら学ぶことができました。特に器具の使い方については、大学で初めて取り扱ったものもあり、貴重な経験でした。

授業や実習で学習指導案を作ることがあります。どういった点に注意して書くかということを知っておくことは、教育実習や実際に教員として指導案を作ることになったときにとても役立つことだと思います。具体的には、授業に際して、生徒を評価することが必要になります。その「評価の規準(ものさし)」をどのように定めるか、規準を定める上で、どのような点に注目して生徒を理解していくかなど、実際の教育現場に立ってみて考えられることについても学ぶことができました。実践的なことも含めて授業作りができたことは良かったと思います。

Hさん(仙台三桜 OG, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が宮教大・理科をめざしたきっかけは、教員になりたいと思っていたからです。また、もともと理科という教科が好きだったため、理科を受けることにしました。宮教大は、学生と教授との距離が近い感じがします。理科以外にも、特別支援や他の免許などを取ることもできます。

物化生地、それぞれの分野の様々な実験を行うことができるため、知識が身につきます。それに加え、実験では、Word や Excel などを用いるため、それらのソフトウェアの基本的な使い方が自然と身につきます。同じ専攻のメンバーと協力して実験やデータのまとめを行うため、仲が深まります。

他大学に比べ、教育実習という経験を2回も行っていることが、貴重であると感じます。グループの複数人で授業を作っていく3年次実習と、自分ひとりで全てを行う4年次実習では、また異なる感想を感じると思います。2回も実習を行えるため、他大学と比べたときに安心して実習に行けると思います。

Hさん(仙台三桜 OG, 初等教育・理科コース 4 年)

私が宮教大・理科をめざしたきっかけは、中学校時代にお世話になった先生方へ憧れを持ち、教師を志し始めました。高校入学時には校種が決まっていなかったため、地元で複数の免許を取得できることから宮教大への進学を考え始めました。オープンキャンパスや教師を志す高校生支援事業に参加した際、構内の自然の豊かさ、学生の明るさと親しみやすさ、教授方の優しい雰囲気、学生と教員の距離の近さにおいて本学に惹かれました。また、研究室訪問でクラゲの研究室を訪れ、大学でクラゲの研究ができたらかっこいい！と思いました。

教科選択時には、放送部で日本語の美しさや面白さに触れ、書道も好きだったため国語科も考えましたが、最終的には理科を選びました。田舎育ちだったことや釣りや山草好きの祖父がいたことで、自然の中で遊ぶことが多くありました。自分が子どもたちに伝えられるのは自然の面白さであり、自分が祖父と一緒に自然を学んだように今度は沢山の子もたちと自然について学んでみたいと思い、理科を選択しました。

受験勉強を乗り越えられたのは、一緒に頑張った友人、先生方の支えが大きな存在でした。私は、推薦を受けることができたので、高3の夏休み明けから推薦レポートの作成に取り組み、担当の先生にお願いをして、毎日、朝や放課後に添削をしていただきました。試験の1か月前から面接や集団討論の練習が始まり、沢山の先生方に練習をお願いし、多い時は1日3回練習していました。LHRや休み時間に食堂上のホールで、友人と面接練習をすることも多かったです。今でも友人達とは、一緒に志望理由を考えたことや練習後に上手くできないのが不安で泣いた事などを思い出として話しています。面接では、女子アナウンサーになりきって明るくハキハキにこやかに、自分が教員になった時のことを想像しながら話すようにしていました。はじめは緊張で全くできませんでしたが、本番の前日まで志望理由など悩んでいましたが、なるべく自分の経験を素直に話すことで落ち着いて挑むことができたと思っています。結果としては、推薦で無事合格をいただくことができました。

もちろん、推薦と並行して一般試験への勉強もしていました。とにかく時間が足りなかったです。3分考えても分からないことは、すぐ先生に教えてもらいに行きました。放課後の課外授業は参加できないことが多かったため、自分でテキストを進め、空き時間に個人的に質問に行っていました。

Iさん(宮城野OB, 中等教育・理科教育専攻4年)

私が宮城教育大学を目指し始めたのは、高校2年生の頃です。もともと中学生の頃から他人に勉強内容を教えることが好きで、うっすら宮城教育大学を目指していました。高校3年生の後半には、宮城教育大学を受験することを決め、まずは共通テスト、そして二次試験と、勉強を進めました。共通テストを全体で7割取ることを目指し、勉強をしました。まずは得意科目を固め、同時に、苦手科目の基礎知識を付けていきました。苦手科目は伸び悩みましたが、「プラトー」と呼ばれる、知識を付けても点数に直結しない時期(停滞期)を越えると、ある程度点数は取れるようになりました。取れる問題を落とさないことを意識して勉強をすれば、基礎固めをしながら演習をすることができるため、日々の勉強内容を明確に、一つ一つ学びを進めてください。共通テストが終わったら二次試験ですが、基本的に共通テストの勉強で基礎固めはできているため、あとは志望校の問題の傾向を理解することや、発展問題への対応力を付けることが大切だと思います。二次試験はとにかくどれだけ演習をしたかが点数に直結するので、頑張って演習を積み重ねてください。

3年生・4年生になると「教育実習」があります。宮城教育大学には、附属中学校があり、そこには3年生で行きます。宮城県で最先端の教育が行われている学校であるため、様々な実験器具が用意されていることや、実習生を育成する専門の先生がいること等、とても多くのことを学ぶことができます。3年生で学んだことを、さらにまた4年生の教育実習で活かす機会があります。4年生の実習では、ランダムに学校が指定され、そこへ実習をしに行きます。附属中学校の生徒よりも、実習生に慣れていない生徒に対して授業をするため、より実践的な実習となると思います。他の大学では学ぶことができない貴重な体験をすることができるため、先生になりたいと思っている人は、候補に考えてみてください。

Uさん(仙台向山OB, 中等教育・理科教育専攻4年)

私が宮城教育大学の理科を目指したきっかけは、小学校の頃から理科に興味関心があり、勉強を教えるのも好きだったからです。中等の理科を受験しようと思ったきっかけは、昔から教員になりたいと思っていましたが、小中学校に比べて高校で学んだ理科の内容がとても面白く、やりがいがあると思ったからです。入学してみて授業の中で教員採用試験や教員になった際に使うであろう児童生徒に対する知識や理科の専門的な知識、学習指導案の書き方、指導法など役に立つ様々なことを学ぶことが出来ました。その中でも、実験の授業は印象に残っています。実験は2、3年生になると週に2回行われます。とても長丁場ではありますが、物理、化学、生物、地学の4分野それぞれの実験を経験することができます。高校では体験できなかった高度な実験技術や知識を習得できると思います。そこで、実験レポートの書き方を学ぶこともできるので、長時間拘束されて大変ではありましたが、その分だけ得るものも多くあったと思います。この経験が生きて、教育実習の際の予備実験を自分で計画立ててスムーズに行えたのではないかと思います。また、宮城教育大学は3年生の時に宮城教育大学附属中学校に2週間、4年生の時に一般校に3週間、教育実習に行く機会が設けられています。私は他の大学に比べて教育実習が多くて、面倒くさいと思っていました。しかし、3年生の時に2週間の教育実習に行くことによって、4年生の時の教育実習はとても自信を持って授業や生徒とのコミュニケーションを行うことが出来ました。また、教育実習の時に良かったと思ったのは、学校の授業での指導案作成です。指導案は中学校の教員であると特に、書かなければいけないものです。指導案があると、授業をどのように進めていけば良いかが明確に分かるため、自分が授業をするうえでの安心材料にもなります。しかし、指導案は初めから書くことが出来るものではありません。宮城教育大学では指導法の授業で指導案の書き方を練習することができるので、その当時は大変だと思っていましたが、実際に書くとなるととても役に立ったなと思います。

Tさん(仙台向山OB, 中等教育・理科教育専攻4年)

宮城教育大学の理科系は、教員1人あたりの学生数が少ないため、教員との距離が近く、密度の高い指導を受けることができると思う。個別のサポートや質問への対応がしやすい環境が整っており、特に特別支援教育が充実している点も特徴であるので、特別支援教育に興味がある学生にとっては非常に魅力的な選択肢である。この大学の理科専攻を目指したきっかけとしては、理科そのものに対する興味や探求心が大きな理由であった。理科に対する情熱があれば、得意・不得意を問わず充実した学びができる環境であるので、理科教員を目指している人にとって非常におすすめの学びの場であると感じる。

免許の取得について、理科の免許のみの取得を目指すのであれば、時間割の負担も比較的少なく済み、サークル活動やアルバイトを楽しむ余裕も十分にとることができると思う。私自身も学生生活の中で趣味や仲間との時間を大切にしながら、サークル活動と学びとの両立を図ることができた。さらに、教員免許を取得できるという点は、将来の安心材料にもなる。教員資格を持つことで、将来の職業選択の選択肢を増やし、将来的に進路を柔軟に考えられるようになると思

う。ある意味、まだ明確なキャリアプランが決まっていない人にとって、この環境は魅力的であると感じる。

高校生の皆さんには、ぜひ目標を高く持って勉強してほしいと思う。高い目標を設定することで、大学や学びの選択肢を広げることができる。少し恥ずかしいなというくらいの目標を掲げた方が、成績も伸びていき勉強のモチベーションも保てると思う。

Oさん(仙台東 OB, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が宮教大・理科をめざしたきっかけは、「教員になりたかった」「理科が好きだった」からです。ただ、高校時点ではなんとなく思っただけでした。もともと、数学の教員になりたかったのですが、数学Ⅲの理解に苦しみました。定期試験で過去最低点をとったのも数学Ⅲでした。理科は得意だったというよりも好きだった気持ちが強かったです。そのため、入試の成績は非常にギリギリでした。模試の判定も全然だめで、合格したらラッキー！ぐらいの軽い気持ちで受験しました。私はどうせ入学するなら最低限の努力で入学した方が辛い思いをしなくて済むという甘い考えを持ちながら勉強していました。しかし、今思えばもっとしっかり勉強時間を確保するべきだったと痛感しています。それは妥協する癖がついてしまうからです。周りの人に流されてゲームをしてしまったり、夜遅くまで学校で友達と話してしまったりと嫌なことから逃げてしまうことが多かったです。受験勉強では競い合えるライバルを見つけることが大切だと思います。一人で努力できる人はそれに越したことはないですが、できない人こそ勉強している友達から良い刺激をもらうべきだと思います。周りの友達が遊んでいると自分一人だけ勉強を頑張っていることがとても辛くなります。受験勉強においては環境整備が非常に重要だと思っていて、自分が集中して取り組める環境を見つけてほしいなと思っています。また、振り返りを必ず行って間違えた問題は二度と間違えないように努めることが大事だと思っています。

宮城県では唯一の教育大学だったことや国公立であったことが魅力的で入学しました。なんとなく教員になりたい人は、特に入学するべきだと思います。周りの学生も教員になりたくて入学した人が多いので良い刺激をもらえると思います。先生方も教員になるためのサポートを積極的にしてくれます。私は大学に入学した後に教員になりたい気持ちが強くなりました。教育実習で実際に生徒と関わる機会だったり、大学での模擬授業作りだったり実際の教員に近い活動が充実しています。世間では教員の労働はブラックだという認識がされていますが、実習を経験した側から言うと劇的に労働環境が変わっている最中です。

理科専攻では他の学科とは大きく異なり、実験を行います。当時はものすごく大変でした。時間内に終わらなかつたりレポートの締め切りが近かつたりと時間に追われる毎日でした。今思えばとても充実した生活を送っていたと感じています。他の専攻の人は講義の時間以外はやる事がなくて暇を持て余している印象でしたが、理科専攻はその時間を課題にあてたりテスト勉強にあてたりする学生が多かったです。だらけた生活を送ってしまいがちな大学生活だからこそ、充実した日々を送ることができていたと思います。また、中学や高校ではできないようなスケールの大きい実験ができることがとても魅力だと思います。高額な実験機器を扱ったり、夜の天体観測を行ったり、山道を歩いたり、色々な生物を観察したりします。納める学費に見合うような貴重な経験ができます。

Yさん(仙台東 OG, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が宮教大・理科を目指したのは、やはり教員になりたいと考えたからです。教員になるためには、どうすればいいのかを実際に先生方に聞いてみると、宮教大がよいと言われ、宮教大を目指すようになりました。中でも理科の先生を目指したのは、高校の担任の先生に「理科にしようか！」と言われたからです。そんな理由でも理科の先生を目指して宮教大に入ることができたので、目指したきっかけは関係ないと思います。実際に宮教大に入学してみて、みんなが教員を目指しているため、互いに切磋琢磨しながら教員採用試験の対策ができたと思います。勉強でくじけそうになった時に、自分より頑張っている友達をみて、自分を奮い立たせることで、教員採用試験も乗り越えられました。

また、周りには、職業として教員を選ばなかった人もいます。最終的に教員を目指さなくも宮教大を出るだけで、教員免許を取得できるため、気が向いたらいつでも学校で働くことができます。将来の安定という面でも宮教大はおすすめです。加えて、小中高、他教科の免許など取ろうと思えば、たくさん免許を取ることができるので、教員を目指すのであれば、他大学よりいいと思います。

特に、理科専攻は、友達を作りやすい専攻なので、おすすめです。実験があり、涙が出そうになるタイミングはたくさんあります。しかし、専攻のメンバーたちは、その困難を乗り越えた仲間たちであるため、その絆はとても強いものになります。大学でベストフレンドを見つけたい方たちは、ぜひ理科専攻にお越しください。

3年、4年の教育実習を終えて、教員は確かに大変な職業だと感じました。その一方で、時間をかけて準備した授業で、生徒たちからの「楽しい」「わかりやすい」という言葉を耳にしたとき、なんともいえない達成感のような感情になります。

す。教員という職業は、頑張った分だけ、成果が目に見え、生徒の成長を間近で見ることができる素敵な職業だと改めて感じました。今改めて、教員を目指してよかったと思っています。

高校生のみなさん！ 教員という素敵な職業を目指す同士たちと出会い、4年間を高め合いながら過ごすことができる宮城教育大学をぜひ目指してみたいかでしょうか？

Sさん(泉OB, 中等教育・理科教育専攻4年)

私が、宮教大・理科を目指したきっかけは、中学校の先生に進路を決める際にすごく助けてもらって自分自身も教師を目指し、生徒の進路選択の一助になりたいと考えたから。そして理科にした理由は、理科がずっと好きで、そのおもしろさを子どもたちにも伝えたいと考えたから。

受験勉強は、絶対に1年前からやりはじめた方がよいと思う。それより以前に勉強し始めるとなると高校の部活や日常生活等楽しめなくなってしまい、良い学生生活を送れないと考える。しかし、勉強を受験の年に始めるとなると、自分自身の経験から時間が足りなくなってしまい、あれもやらなきゃ、これもやらなきゃと自分の脳がキャパオーバーになってしまう。なので、1年前から勉強を行うことがベストであると考えます。

宮教大・理科は観察実験が必ずあり、3時間ぶち抜きの授業となっている。言葉を聞くときつそうに思えるが実はそうでもなく、同級生と考えながら行うことができるので、自分のためになると考える。特に教員になった際には実験を行うことが多くなるので、大学での観察実験の授業を通して、改めて実験器具の扱い方や教科書には載っていないような実験を自分の知識として蓄えることができる。これが理科の観察実験の授業の大切さだと考える。

3,4年次の教育実習を経て、思うことは確実に実習前と実習後では自分の教員になるための能力は上がっていることだと考える。実際に、自分は実習の中で試行錯誤しながら生徒にどうすればわかりやすく授業をできるか、生徒との関わり方はどのようにすればよいかを考えていた。そして悪いところがあれば改善し、良いところがあればさらに伸ばす努力を行った。その結果、自分の考え方や生徒に対する考え方等について実際に生徒達と触れ合うことによって変えられ、それが自身の能力向上につながったと感じる。実習は何か目的をもって挑むとすごく充実したものになるので、ただ単に実習を行うのではなく、目的を持って考えながら行うことが望ましいと考える。

大学において、一番悩むところであるのは授業とサークル・部活そしてバイトの両立である。一番大事なものはもちろん授業なので、そこはおろそかにしないようにするのが絶対である。そしてサークル・部活は、友人関係を広めるという意味でも入った方がよいと考える。実際に私も部活動に所属し、友人関係を広げることができた。また、経験として生徒に伝えることができるし、就職する際にも自分のアピールポイントにもなりうる。バイトは無理のない程度に行うことが絶対に大事である。お金が欲しくなるのは仕方がないが、それで体を壊してしまったら元も子もないのである。

Cさん(石巻OG, 中等教育・理科教育専攻4年)

親が教員で、教員という職業が身近だった。自分自身でも同級生に教えることを楽しいと感じており、子どもも好きだったため、教員を志望しようと思った。また教科選択については、幼少期に自然と触れ合う機会が多かったからか生物について興味があり、理科が好きだったことと、自分で実験を行い調べるといった過程が面白く感じていたため理科を選択した。

理科の授業時間の長さやレポートの大変さなど、実際にやってみて大変だったと感じる部分もあるが、観察実験を授業でやることができよかったと思っている。基本的な実験操作や考察の考え方、実験の際に難しいポイントなど、実践を通して学ぶことはかなり自分の力につながったと感じる。行った実験の中には高校の内容の実験などもあったが、実際にやってみることで理解度が深まったように感じた。また、実験の際にどこに着目して注意する必要があるのかを体験によって理解することができたこともよかった。大学での模擬授業はグループで行うため、授業づくりの良い練習になると同時に、自分にはなかったアイデアや指導方法を取り入れる絶好の機会だと思う。また、予備実験の重要性に気付く機会としてもとても必要だと考えている。講義で模擬授業を何回かやっていたおかげで、実習の時に予備実験の仕方や実験準備の仕方などであまり困らなかった。

3年次や4年次の教育実習を経て、卒業を前に想うことは、とても楽しかったし勉強になった。附属中学校での3年次実習をやっているから、4年次実習の時も過剰に緊張しすぎなかったと思う。2回実習できるのは宮教大の強みだと感じている。

教員志望の仲間がいっぱいいるから心強い。みんな教員志望だから教えるのがうまい。いろいろな同級生・先生がいるため自分に合った教え方を模索しやすい。

Mさん(仙台 OG, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が宮城教育大学に入ってよかった！と思うところは2つあります。

1つ目は、教授の先生と距離が近いところです。私の大学のイメージは、自分のやりたい勉強に必要な講義を受けて、自分で勉強する場所だと思っていました。そのため、大学に入学前は中学校や高校のように先生に気軽に質問しに行くことが難しいのだと思っていました。実際に宮教大に入学すると、理科の先生はみんなとてもやさしくて、わからないことがあれば一から教えてくれます。講義の内容は難しいですが、教授の先生との距離の近さは中学校や高校と変わらないところがいいところだと思います。

2つ目は、特別支援の勉強もできることです。理系の大学で特別支援について勉強できる大学は東北の中でも数が少ないです。さらに、特別支援5領域[視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱含む)]すべてを勉強できる大学は、東北の中では宮城教育大学しかありません。通常学級に在籍する障害のある子どもの数は年々増加傾向にあり、通常学級の先生でも特別支援の知識が必要になる場合もあります。そのため、理科の勉強をしながら特別支援について勉強することもでき、さらに特別支援の免許も取得できるところは、魅力的だと思っています。そして、中等・理科の中にも特別支援に関係するプロジェクトもあり、附属特別支援学校で理科の授業を経験できます。滅多にない経験で、興味のある人にとってはとても勉強になる経験だと思います！

理科の授業の大変さは、物理・化学・生物・地学の4つの分野をすべて勉強しなければいけないところです。高校では、4つの分野のうち2つの分野しか勉強してきません。勉強してこなかった分野については知識が少なく、授業についていくのがとても大変でした。特に大変だったのは、物理の講義です。理科は好きだけど、数学(数学Ⅲ)の知識が足りなくて、授業について行けませんでした。卒業に必要な単位ですが、単位もとれないかと思いました…。それでも、同じ専攻の得意な人に相談しながら勉強することができる雰囲気は、宮城教育大学の良いところだと思います。教育大学だから、教え方もみんな上手です。

宮城教育大学の必修の授業には、模擬授業を行う授業があります。実際に授業を考えてみて、理科が得意な学生同士で考えた授業について話し合いを行います。学部 2 年生の教育実習に行く前に、授業を実際に考えて、挑戦できることが良いところです。実際に授業を考えてみると、意外と難しいことを経験できるため、この経験を教育実習に生かすことができます。グループで、大学の中で行うからこそ、いい意味でいろんなことに挑戦できるのも魅力の一つだと思います！

私は教育大学に入学するときが一番不安だったのが、教育実習です。実際に学校に行って授業をする、子どもと関わるといことがすごく不安でした。でも、実際に学校に行ってみると、授業をするのがとても楽しかったです！ やっぱり、現職の先生に比べると指導力は劣るし、毎日実習日誌を書いたり、指導案を書いたりすることは大変です。それでも、授業での経験や多くの実習の機会によって、実習を楽しめるくらいの余裕はできるのではないかと考えています。困ったときは、グループの友だちや担当の先生、大学の先生を頼れば OK です！ 生徒との関わりを大切に、まずは自分が教育実習を楽しんでいけばきっと有意義な時間になると思うので、大変でも笑顔で頑張ってみてください！

大学に入ったら、いろんなサークルやアルバイトに挑戦してみたいと思います。サークルに入ると、違う専攻の友だちや先輩ができるため、いろんな人に出会えてとても楽しいです。他の免許を取りたいとき、いろんな情報を集められるという利点もあります！ 部活よりもゆるーく活動できるので、興味のあることに挑戦しやすいと思います！

アルバイトはいろいろ挑戦してみてください！ 宮城教育大学だと塾のアルバイトをしている人も多いですが、塾にこだわらず、いろいろ挑戦してみたいです。唯一宮教大のデメリットだと思うところは、教育学部しかなくて、ほとんどの学生が教員志望であるところです。教員志望同士、考えを深められる一方で、他の学部の話聞く機会が少ないです。いろんな考えの人と出会う機会、いろんな職種を知る機会となるため、興味を持ったら挑戦してみるといいと思います。個人的には、進路指導に生かせたらいいなって思いで挑戦してみています。

Gさん(東北学院 OB, 中等教育・理科教育専攻 4 年)

私が宮城教育大学を目指したきっかけは、教員を目指すにあたって、県内の他の大学よりも教育大学というアドバンテージがあり、有利であると考えたからです。

いい点は、教員免許取得に集中できる点、興味があれば他の教科の免許を取ったり、色々な授業を履修できたり、理科の実験が充実しており、理科のすべての分野に関する実験ができることです。また、県内の教育現場には宮城教育大学を卒業した先生も多く、実習などではアドバイスをもらいやすい点も魅力的だと思います。

理科は実験が大変なイメージが強いですが、器具の扱い方や実験の方法などを学ぶことができ、教員採用試験や授業作りに大いに役立ちます。

また、この大学では 2 回も教育実習の機会があるので、ここも教員を目指す上で他の大学に対して大きなアドバンテージだと思えます。

受験するにあたっては共通テスト対策を基軸として進めることをお勧めします。また、配点の大きな教科を取りこぼさないようにすることも効果的です。目標を高く設定すると勉強がはかどります。

授業、サークル、アルバイトの両立のコツは、優先順位をしっかりと決め、何事も後回しにしないようにすることが大切であると思えます。隙間時間の活用も非常に効果的です。

大学では何度か模擬授業を行う機会もあります。先生や先輩がアドバイスをしてくれるので、実習前に力をつけることができます。学習指導案の書き方についても学ぶことができます。また、理科の授業は実験を行う場面が多いので、事前にその実験が上手くいくかどうか、生徒たちが実施可能かどうかを確かめることが大切です。

教職大学院の大学院生より

Kさん(宮城第一 OG, 初等・理科)R5年度卒業, 教職大学院 1 年 ※仙台市の教採合格済みで採用猶予進学中

私が宮教大を目指した理由は、地元で働きたいという思いや、一番専門的なことが学べる場だと考えたからです。また、理科を選んだのは、もともと理数科(当時)だということもあり理科が好きだったことや、「今の小学校では理科の専門性が強みになる」と教員の父から言われたことがきっかけです。

実験や授業は大変ですが、その分理科の学生は縦の結びつきも横の結びつきも強くなります。卒業後も実習で配属された小学校で「理科コースでした」とお話しすると、同じ出身の先生方と大学の話で盛り上がりました。同じ経験をしている分、年は離れていても結びつきが強くなるのだと最近感じています。また、卒業後も大学を訪れたり、大学と連携して教材を使ったりなどと卒業後のつながりも作れるのは、理科ならではではないかと感じています。

3 年生の教育実習では、小学校 4 年生に配属されました。現場での実習は初めてで、不安が大きかったのですが、「さすが附属小」と思わんばかりの子供たちの対応力と、先生方の手厚いご指導のおかげで、無事に楽しく実習を終えることができました。3 年生の実習の時には、クラスの児童や担任の先生への思い入れが 2 週間で強くなったことで、最終日にはクラスに配属された 4 人の実習生とクラスの児童がみんなで泣いて別れを惜しんだことが印象に残っています。この実習の 2 週間で「学校の先生に絶対なりたい」と気持ちがより強くなりました。附属小で実習できるのは、宮教大ならではの経験で、教育の最先端を見ることができてとても勉強になると思えます。

4 年生の教育実習では、3 年次の実習よりレベルアップして、たくさん授業を経験することや、より現場に近い経験をたくさんさせていただきました。引き渡し訓練や、プール清掃など、子供がいる時間以外のお仕事についてもたくさん経験することができたのが印象に残っています。理科の授業は経験できなかったものの、授業をたくさんして指導をいただいたことで、自分の弱みを認識できる機会になりました。

今は、教職大学院の教育実習で週に 1 回の教育実習をしています。この実習の良いところは、長い期間(2 年間)で児童に関わることができることです。現場に出る前に、現場を少しずつ経験しながら自分の研究テーマと向き合えるこの時間は非常に貴重だと感じています。私は今、教職大学院に通いながら、取得した免許を生かして小学校で理科専科(非常勤講師)をしています。また、令和 8 年度から仙台市で小学校の先生になることが決まっています。

私は宮教大で過ごした 4 年間で最高に楽しく、学びが充実していたと感じています。同じ志を持った仲間と切磋琢磨しながら過ごすことができたのは本当に良い経験でした。卒業後もお互い連絡を取り合いながら、支えあえる仲間がたくさんできました。ぜひ宮教大を選択してもらえればうれしいです。

Aさん(仙台育英学園 OB, 中等・理科)R5年度卒業, 教職大学院 1 年 ※宮城県の教採合格済みで採用猶予進学中

私は現在宮城教育大学教職大学院にて、生態系の複雑かつ絶妙なバランスについて、フィールドワーク等を行わなくとも、視覚的にイメージすることで考察することのできるゲーム教材の開発をテーマに研究を行っております。私は大学の卒業研究として、河川での食害が問題視されているカワウの駆除方法の提案を行ったのですが、研究を進めていく過程で、かつて個体数の激減したカワウを人間が保護した結果個体数が増加に転じ、今再び駆除しようとしている背景を知り、人間が介入することによって生態系の絶妙なバランスが乱されていることを、あらためて痛感しました。生態系については、中学校 3 年の理科で扱う内容であり、高校入試を間近に控える時期に学習することや、その内容の都合上、校外に赴いてフィールドワーク等の授業を行うことは、時間的な制約や安全性の観点から難しいといえます。そのため、生態系のバランスについて具体的なイメージを掴みづらい生徒が多いのではないかと推測しました。そこで私は、ゲーミフィケーションを利用した教材を活用することで、生態系を視覚的なイメージで捉えやすくなるのではないかと考え、こうした研究テーマを設定しました。多くの先生方や大学生の方々にご協力いただいた結果、ゲーム教材は概ね完成し、現

在は各地の中学校での実践に向けて動いております。このように、宮城教育大学には教育に関する様々な研究が出来るように環境が整備されているため、自身の教育理論をのびのびと拡げることができます。これは教員を目指す者にとっては大変心強く、充実した環境であるといえます。しかし、私が教職の道を選んだきっかけは、他ならぬ仙台育英での生活があったからでした。

私が中学校理科の教員を志したのは、高校2年の夏ごろでした。それまでは特にこれといった目標がなく、面談資料の「将来の夢」の欄の記入には毎回苦労したものです。そんな私にきっかけを与えてくれたのは、当時のクラスメイトから不意に言われた「お前って教えるの上手いな」という言葉でした。確かに、将来の夢は無いが、好きなことはある。それはこうして他人に何かを教えることだと気づき、「教員も面白いかもしれない」と感じるようになったのです。こうして進路が漠然と定まった私でしたが、それが確信に変わったのは何よりも育英の先生方のご支援があったからだと感じています。仙台育英の特別進学コースには、大学の先生方の出張授業や予備校の講師による放課後特訓など、外部の方々と密接につながることでできるカリキュラムが組まれていました。教職を目指す上で、このようにスタイルの異なる授業を多く受講することができたことはとても貴重な経験だったといえます。また、受験直前のナイーブな時期には数多くの先生方に背中を押していただき、「受験は団体戦」という意識を強く感じることができました。長い歴史を持つ仙台育英には、多種多様な夢を抱く生徒を支援するための体制が構築されています。教員を志す皆さん、私も陰ながら応援をしております。ともに子どもたちのために尽力していきましょう！

現職の教員より

Sさん(仙台第二 OG, 初等教育・理科コース)R5 年度卒業 ※仙台市立小学校 3 年担任

2年次から実験の授業が始まります。「実験は時間がかかるし大変だから」という理由で理科を専門とするのをためらう人もいるかもしれません。確かに、理科を専門にすると、他教科専攻の学生は行わない実験をしたり、時間がかかる実験に取り組んだりします。しかし、自分で望遠鏡を操作してじっくりと天体観測をしたり、大学近辺の自然を詳しく観察したりする機会はめったになく、「宮教大で理科を専攻したからこそ、充実した実験ができた」と感じています。また、様々な実験をした経験が、学校現場で生かされています。自分で器具を操作しながら行う実験では、難しい点や危険な点が見えてきます。これが、学校現場でのヒヤリハットの回避につながっていると思います。小学校教員になると、基本的には自分で理科の授業をします。気を付けるべき点分かっていると、準備段階での安全に配慮した工夫や、実験時の子供への声かけが大きく変わり、子供たちが行う観察実験の質も上がります。

教育実習は、子供の素直な反応を知ることができる、貴重な機会です。大学での模擬授業や指導案作りを土台として、目の前の子供と向き合う中で様々な学びを得られます。子供たちが一生懸命応えてくれる姿を見て、「先生になりたい」という思いが強くなりました。私は、中学校理科と高校理科の副免許も取得するために、中学校にも教育実習に行き、理科の授業をしました。中学生でも驚くような現象を見せたいと思い、放課後に何度も予備実験をし、試行錯誤を繰り返しました。授業で実験に成功した時、生徒たちが「どうして!？」と進んで考え、参加してくれたことが印象に残っています。また、中学校実習を通して、小学校での学習内容がいかに定着しているかが大切であることに改めて気付かされました。

現在は、小学校で3年生の担任をしています。3年生は、初めて理科に出会う学年です。勉強に苦手意識を感じている子供が、生活経験と結び付けて興味を持ち、「理科って面白い!」と前のめりで授業に参加してくれる姿を見ると、「先生になって良かったな」と喜びを感じます。教員が理科の面白さを知って授業をしなければ、子供に伝わることはないと思います。私は元々理科が好きでしたが、大学で深く学んだことで、より理科の魅力を知ることができました。ぜひ、宮教大で、子供たちの「理科が好き!」を引き出せる先生を目指してみませんか？

Sさん(仙台二華 OG, 初等教育・理科コース)R5 年度卒業 ※仙台市立小学校2年担任

私が宮教大の初等(理科)を目指したきっかけは、小学校の教員を志していた上でもともと「なんでだろう?」と考えて調べることが好きだったので、小学校の教科の中で自分がずっと興味をもって子供に教えられるのが理科だと思ったことです。ただ、私自身理科が一番得意な教科というわけではなく、むしろ高校の時の成績は他教科よりも低めでした。そのため、推薦入試での合格を目指し、面接や小論文の練習を高校3年生の夏頃から始め、合格することができました。

大学での理科の授業は、物化生地それぞれの実験や座学に加え、授業づくりも学習します。実験は、大学の近くの山に登り地層を観察したり、カフェインを抽出したりしていました。その後、パソコンでレポートを書くのですが、理科がすごく得意ではなかった私にとっては難しく周りの友人と協力しながら書いていました。その分、他の人と考える楽しさがあり、パソコンを使うこなすことができるようになりました。授業づくりでも、1つの授業に対してたくさんの友人と、よりよい実験ができるように何度も予備実験を行ったり、よりよい発問や流れを考えていました。実際、教育実習でも理科の授業

をしたのですが、何度も練って行った結果、「面白い」とボソッと聞こえた子どもの言葉を聞いて、すごくうれしかったのを今でも覚えています。

今、私は小学 2 年生の担任をしています。理科の授業はないものの子供たちは理科的な考えをたくさん持っていることを知りました。例えば生活科の授業で紙コップとゴムでロケットを作った際、より上にロケットを飛ばすために、ゴムを 2 重にしたり、十字にしてつけたりなど工夫していました。また、黒板についていた磁石を触り、「こっちは面はくつつくの、反対にするとつかない！なんで？」と何度も確かめて不思議そうにしている様子がありました。身近なところに子供たちが考えなくなる不思議がたくさんあり、それを一緒に深く考えられるのは理科だと思います。子どもたちと一緒に考える楽しさとそれを伝えられる知識を、理科を専門として学べたら、より自信につながると私は思います。

Hさん(仙台南 OG, 初等教育・家庭科コース)R5 年度卒業 ※仙台市立小学校4年担任

私は「先生になる！」という夢をかなえるために、宮教大で学ぶことができ本当に良かったと思います。4 年間で振り返り、大切な仲間とたくさん出会うことができました。入学当初はコロナ禍ということもあり、友達ができるかとても不安でした。しかし、卒業を間近に控えた頃には、大学での思い出は、仲間との笑顔の思い出でいっぱいでした。

教育実習では「子どもが考えなくなる授業」を作るために、みんなで意見を出し合いました。授業づくりを共にする中で、お互いに大切にしたいことや、教育に対する熱い思いが見える瞬間がたくさんあり、自分自身も大きく成長することができたと思います。教員採用試験では、面接練習や集団討論の対策をしてくださるキャリアサポートセンターの先生方に大変お世話になりました。キャリアサポに行くと、いつも明るく迎え入れてくれて、勉強のモチベーションをあげることができました。試験当日も先生方のおかげで、適度な緊張感の中で自分らしい回答をすることができました。卒業後は仲間とばらばらになってしまいますが、次に会ったときに自信を持って「頑張っているよ！」と言えるように、それぞれの場所で成長し続けていきたいです。最後になりますが、4 年間は充実していればしているほどあつという間です。自分か学びに行く姿勢を忘れず、ちょっとした勇気をもっていろいろなことにチャレンジしてみてください。皆さんの大学生活が充実したものになりますように！

以上、宮城県内 13 高校の卒業生、教員志望(現職教員含む)の 17 人から「生の声」の提供を受けました。掲載順に、仙台三桜(3)、宮城野、仙台南(2)、仙台東(2)、泉、石巻、仙台、東北学院、宮城第一、仙台育英学園、仙台第二、仙台二華、仙台南の各高校卒業生の協力を得ました。(カッコ内の数字は、同一校で複数の協力者の人数です。